# 平成２７年度第１回田原市総合教育会議　議事録

１　日時
　平成２７年７月２９日（水）　午後３時～午後４時２７分

２　場所
　田原市役所　南庁舎４階　政策会議室

３　協議事項
（１）総合教育会議の運営について
（２）教育に関する大綱について
（３）教育を取り巻く課題について意見交換
（４）その他

４　出席者

| | | |
|---|---|---|
| 市　　長 | | 山下　政良 |
| 教育委員会 | 教育長 | 花井　　隆 |
| 教育委員会 | 教育長職務代理 | 横田　　威 |
| 教育委員会 | 委員 | 金原　真人 |
| 教育委員会 | 委員 | 山本　明子 |

５　欠席者
　教育委員会　委員　　土井　真紀江

６　会議構成員以外の出席者及び事務局

| | |
|---|---|
| 政策推進部長 | 中村　　匡 |
| 教　育　部　長 | 前田　和宏 |
| 教育部教育総務課長 | 鈴木　　努 |
| 教育部教育総務課教育企画室長 | 三竹　雅雄 |
| 政策推進部政策推進課主幹 | 矢口　美英 |
| 教育部教育総務課教育企画室主任 | 清水　綾子 |

７　傍聴人
　１４名、うち記者１名

８　協議の経過
（政策推進部長）
　定刻となりましたので、只今から第１回田原市総合教育会議を始めさせていただきます。
　なお、土井委員から都合で欠席との連絡がありましたのでご報告させていただきます。それでは始めに山下市長からご挨拶を申し上げます。

（市長）
　第１回の総合教育会議にご出席いただき、誠にありがとうございます。
　私が言うまでもありませんけれども、新教育委員会制度の中でこの総合教育会議が義務付けられました。市長と教育委員会が密接な関係にもっとなりなさい、細かなことについても市と教育委員会がもっと一緒になってやっていきなさいということでございます。
　皆様方にいろいろな意見を伺って、教育委員会の中だけでなく、市も一緒にそれを考えて

進めていくということでありますので、皆さんの御意見をいただきながら、より良い教育委員会制度として進めてまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

（政策推進部長）
総合教育会議の構成員は、お手元の名簿のとおりでございます。今回が第１回目の会議となりますので、皆さん御存知の方ばかりではありますが、あらためて自己紹介をお願いします。市長は只今挨拶いたしましたので教育長から順にお願いいたします。

（教育長）
教育長の花井隆（はないたかし）でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

（横田委員）
教育長職務代理の横田威（よこたたけし）と申します。よろしくお願いします。

（山本委員）
教育委員７年目の山本明子（やまもとあきこ）と申します。よろしくお願いします。

（金原委員）
教育委員の金原真人（きんばらまさと）と申します。よろしくお願いします。

（政策推進部長）
事務局につきましては、名簿のとおりでございます。では、ここからの進行は、本会議の招集者であります市長にお願いします。

（市長）
それでは、議題に沿って進めてまいりたいと思いますので、よろしく御協力を賜りますようお願い申し上げます。それでは、協議事項（１）総合教育会議の運営について、事務局から説明をお願いします。

（教育企画室長から協議事項（１）について説明）

（市長）
只今、事務局から説明がありました。まず、要綱案についてご質問のある方がおられましたらお願いします。
要綱の施行日は今日になるのですか。

（教育企画室長）
お認めいただければ、今日と考えております。

（市長）
よろしいですか。異議ございませんでしょうか。それでは、この要綱に添って進めてまいりたいと思いますので、よろしくお願いしたいと思います。
それでは次の協議事項（２）教育に関する大綱について、事務局から説明をお願いします。

（教育部長から協議事項（２）について説明）

（市長）
只今の事務局説明に対しまして、質問等ございましたらお願いします。
資料中の「議論のたたき台」に現行の基本理念とその修正案が２つ示されていますが、どのような位置付けになりますか。

（教育部長）
現行の基本理念が「ふるさとに学び　人がつなぐ　田原のひとづくり」となっているので

すけれども、これを例えば「ふるさとに学び　人が輝く　田原のひとづくり」、「ふるさとを愛し　幸せを育むまちづくり」といった基本理念にしていってはどうかという案でありまして、これは今後の話であります。

（市長）
これから決めていくということですか。

（教育部長）
そうです。これはあくまでもたたき台でございます。

（教育長）
この総合教育会議において意見を出し合って、このままでいくのか、変えていくのかということを話し合っていくということでいいですか。

（教育部長）
はい。そうしていただけるとありがたいと思っております。

（横田委員）
現行の教育振興基本計画第２章の目指す姿の部分を市長と共にこの会議で決めていこうということですか、それとも計画全体をこの会議で決めていくのですか。

（山本委員）
現行の教育振興基本計画をつくり直すという訳ではないですよね。

（教育部長）
現行の教育振興計画第２章の目指す姿の部分を改定したものを大綱として位置付けたいと考えており、全体をつくり直すことまでは考えておりません。

（金原委員）
基本理念の修正案として２つの案が示されているのですけれども、この２つの中から１つ選ぶということですか。

（教育部長）
これはあくまでも事務局の案ですので、２つの修正案に拘らずに考えていただきたいと思っています。

（市長）
この場で「基本理念」や「目指す人づくり」、「重視する考え方」を決めていくのですか。

（教育部長）
この会議で決めていただきたいと思っております。

（山本委員）
５年前に今の計画をつくった時の田原市の一番の基本的な理想像が、今もそのままでいいのかということですね。

（教育部長）
はい。５年前に決めたことがまだいいのかどうかということをこの会議の場でご議論いただきたいと考えています。

（横田委員）
これをつくった時点のことはよく把握しておりませんが、市の総合計画に基づいて作っているということでよろしいでしょうか。

（教育部長）

改定前の総合計画に基づいて作っております。その後、総合計画が改定され多少ずれている部分もありますので、その点も踏まえて検討していただければと思っています。

（山本委員）
総合計画改定の時、自分も委員として出席していたのですけれども、幸福を実現するということを徹底的に話し合って、幸福とは何なのかということを基にした今の総合計画にもっとマッチしないといけないのではないかということですね。

（政策推進部長）
平成１９年に策定した第１次田原市総合計画を平成２４年度に改定しております。

（教育部長）
その後、教育振興基本計画は改定していません。

（教育長）
「基本理念」、「目指す人づくり」の辺りを大綱で検討していって、それに従って新たな教育振興基本計画をつくる考えですか。

（教育部長）
現在の教育振興基本計画の基本理念に相当する部分を総合教育大綱として作っていただき、それを教育振興基本計画とイコールにしようと考えています。個別計画については、各課で準備を進めているところであります。

（市長）
分かりました。そうしますと、教育ですので「まちづくり」よりも「人づくり」の方が良い気がします。

（山本委員）
これは今日決めるのですか。

（教育部長）
今日の議論を踏まえまして、次回１１月の会議でもう一度事務局案を出し、最終的には２月頃には決めたいと考えています。

（政策推進部長）
市の計画の中で最も上位にあるのが総合計画で、それが改定されたことに伴って教育振興基本計画と方向性が違ってはいけないという考えの基、事務局で修正案を考えて今回お示しをしているということかと思います。
こういった考え方をしっかり入れた方がいいのではないかといった意見をいただければ、それに基づいて事務局が具体的な案を作ってまいります。それをまた会議にかけて意見をいただいて決めていきましょうということで、この場で一字一句決めるということではありません。

（教育部長）
どんな人づくりをしていきたいかということをご議論いただければいいと思います。

（横田委員）
修正案として示されているものは、市の総合計画に沿ったものですか。

（政策推進部長）
そぐわないものは出ていないと思っています。

（横田委員）
自分としてはそこが心配で、自分達がここで言ったことが市の総合計画とずれてしまって

はまずいかなと思ったのですが。

（教育部長）
それは、事務局で修正しながら入れていきますので大丈夫です。

（政策推進部長）
ずれてはいないけれどもここはもっと強く言った方がいい、あるいは、こういった点を入れた方がいいのではないかといった意見をいただければ良いのではないかと思います。

（金原委員）
教育なのでやはり「ひとづくり」という言葉を入れて欲しいですね。

（市長）
金原委員からご意見がありましたように、教育の場合は、「まちづくり」というよりも「ひとづくり」になると思いますので、案に反映していただくようお願いします。

（山本委員）
例えば「人が輝く」という表現は、非常に抽象的だと感じます。総合計画では、幸せを育む、幸せになって欲しいということ重視し、幸せを感じるサスティナブルシティを目指していこうという方針を打ち出しました。「幸せ」という言葉が基本理念の中に入ると良いと思います。

（教育長）
学校現場ではふるさと教育をやっておりますので、「ふるさとを愛し」あるいは「ふるさとに学び」は、違った言葉になるかもしれませんが残しておいて欲しいと思います。また、「ひとづくり」についても大事にしていただきたい。あとは、「輝く」なのか「幸せ」なのか、もう少し別な言葉にということかと思いますが、概ね基本理念については良いのではないかと思います。

（横田委員）
自分も概ね良いと思いますけれども、言葉の意味をどう捉えるかということがやはり一番大事で、意味をきちんと伝えていく必要があると思います。「ふるさとに学び」、これは教育だけでなく、文化、スポーツもそうですよね。ふるさとのいいところを学んでいくということを、市民の方々に意味をきちんと伝えていくべきだと思います。
「目指す人づくり」についてですが、２つめに「共に支えあう人」、３つめに「社会に貢献する人」とありますが、この２つは、田原市ではなかなか浸透していないボランティア精神のことだと自分は思っています。ボランティア精神ということをどれだけ市民の方が受け入れてくれるか、また、市としてどのようにしていくか、非常に難しいところがありますが、自分としては、田原市民にもっとボランティア精神を持っていただきたいと思っています。市内にボランティア団体がいくつもあるのですけれども、ぜひ活動に参加していただけるとありがたいと思います。言葉自体はいいと思いますけれども、言葉自体にそういう意味が含まれていると思います。

（市長）
今、横田委員が言われた考え方を「目指す人づくり」の部分に反映していただくということでお願いしたいと思います。

（教育長）
「基本理念」から「重視する考え方」まで最終的にまた案が出てくると思いますが、「目指す人づくり」のところで、前々から「社会のルールを守り」という文言は、他と比べて非常に具体的であると感じますので、これは改めたいと思っています。
社会のルールを守りというと、決められたことを守るということなのですが、横田委員が

言われたように、ボランティア的に自分から進んで何かをやっていく方向性が出せるといいと思います。
　また、修正案の２つめに「礼節と約束を守り」とありますが、「礼節」と「約束」は言葉のレベルがだいぶ異なっていて、並列ではないと感じます。ふるさとに学びということからすると「礼儀」の方がいいのではないかと思います。愛知県の教育目標にも礼儀という言葉が入っていますので、これは大事にして欲しい言葉だと思っています。

（政策推進部長）
　先程、横田委員が「目指す人づくり」に関して言われましたことですが、市の総合計画でもかなり重視していることで、今は行政が全てをやることができる時代ではないものですから、自助、共助、公助とよく言われますが、まずは自分のことは自分でやりましょう、それでできないことは地域でやりましょう、それでもできなないことはコミュニティや市、さらに県でという精神です。
　それがまさに先程横田委員が言われた「共に支えあう」、「社会に貢献する」ということだと思います。社会全体としてそういった人材育成が求められておりますので、教育におきましても非常に重要な部分だと思っております。

（市長）
　議論のたたき台として示された項目に限らず、お気づきの点があれば何でも言っていただければと思います。

（金原委員）
　「目指す人づくり」に関することですが、地元の小学生に聞きますと、暗い、何もないといった意見が大半です。どのようにしたら「ふるさとを愛し、たくましく生きる」に育てていけるのかということを具体的に入れていただきたいと思います。

（教育長）
　「目指す人づくり」のところはイメージで、その下に目指す具体的な人間像というものがあると思います。「重視する考え方」の下に、具体的な人間像を追加し、そこにどんな人か具体的に示してはどうかと思います。
　自分としては、目指す人づくりには「社会のルールを守り」を入れたくないのですが、そこには「社会のルールを守り」が入っても止むを得ないと思います。「社会のルールを守り」は「目指す人づくり」よりも、具体的な人間像のところに入れてはどうかと考えています。

（市長）
　現行の目指す人づくりは、何れも「育てます」としてありますが、あまり具体的ではないと感じます。もう少し具体的に入れた方がいいでしょうか。

（教育長）
　この程度でいいかと思います。自分としては、①と③はこのままでよく、②は横田委員が言われたボランティア精神という点からも文言を変えた方が分かりやすいのではないかと思います。

（市長）
　修正案が事務局から沢山示されていますが、まずは教育委員会で話し合っていただき、意見を集約してまとめてもらった方がいいかと思います。

（横田委員）
　サーファーやトヨタの社員といった転入者が随分といますよね。その方々にとってみると田原市はふるさとではないのですが、ここに住んだらそこが自分達のふるさとだよという、そういったイメージを持ってもらえるかということも別な問題としてあるかと思います。
　修正案にある「人のつながりを大切にし」というのは、誰にでも言えることで、よそから

入ってきた人でもこの言葉は使えると思います。
　サーファーの人達と付き合ってみて、昔は毛嫌いしていましたが、そういった人づくりをしていく必要があるとこの頃思います。今はボランティアで動いてくれるし、田原市のために活躍してくれていますので、大事にしてあげるということも大切だと思います。

（市長）
　「目指す人づくり」の項目数はいくつ位にと考えていますか。

（教育部長）
　決まっていません。増やしてもいいし、減らしてもいいです。

（教育長）
　「目指す人づくり」は３つ位にしておいて、その下に具体像の田原市版を入れてはどうかと思います。

（山本委員）
　「重視する考え方」のところにでしょうか。

（教育長）
　考え方とも違いますので、別に付け足すのがいいと思います。急に今言い出したことですので具体性をどこまで出すかということはまだ分かりませんが、例えば「ふるさとを愛し」とはどういうことか、田原市の人であればこれこれをする人といった行動版にして。

（市長）
　今回事務局から示されたのはたたき台ですので、皆さんにまた考えていただいて、２回目の会議までにまとめてもらって、また出してもらうということにしたいと思います。よろしくお願いしたいと思います。
　次の協議事項（３）教育を取り巻く課題について意見交換を行いたいと思います。教育施策、教育予算、いじめ、学校再編といったことを雑談形式で、忌憚のない御意見をお願いします。

（横田委員）
　教育予算が段々増えているのは大変嬉しいことですが、学校訪問などで校長先生や教頭先生と話をしていると、今の家庭は洋式トイレが普通になってきているので学校にもぜひ洋式トイレが欲しいということをよく言われます。
　また、学校の先生は多忙多忙とよく言われておりますけれども、特に校務主任、教務主任がいろんな仕事を抱えていて多忙感を感じています。田原市の学校は、学校環境が本当によく整っています。花壇をきれいにしたり、木の剪定を校務の先生がやっている訳ですけれども、できれば豊橋市のように用務員が入ってくれると、全校配置は無理にしても中学校区に１人位いると、教頭先生や校務主任の先生の多忙感は少し少なくなるのではないかと思います。特に小さな学校では担任を持ちながら校務をしていて大変苦しい思いをしているという話をよく聞きます。
　教育予算を随分増やしていただいてはいますが、できることならそうしたことまで考えていただけるとありがたいと思います。

（市長）
　今の２つのことについて、教育委員会としての考えはどうですか。

（教育部長）
　洋式トイレについては、一度に全てをという訳にもまいりませんので、順次に変える努力をしております。
　用務員については、給食配膳のための用務員を全校配置しておりまして、次は豊橋市のよ

うな仕事をしてくれる用務員の配置を検討していきたいと思っています。

（市長）
終日いる用務員ということですよね。昔はいましたよね。

（横田委員）
豊橋市は終日ですけれども、予算のこともありますので、田原市では中学校区に１人配置して１日ずつ小中学校を回るようにすれば、少しは先生の多忙感がなくなると思います。

（教育長）
今は女性の用務員がほとんどで、給食配膳の合間に草取りなど多少のことはできるのですが、大きな学校だと毎日ごみが沢山出てきて、特に秋の落ち葉の時期は、焼却炉がなくなってしまったのでその処理をしないといけない。剪定を含めて女性ではやりにくい仕事なので、男性の方が向いているのではないかと思います。そういった人がいれば、変質者対策、校内への侵入者対策にもなるのではないか。
防犯カメラを設置している市町村もありますが、見ている人がいるかというとそれも難しいところがあります。学校としては、安全管理も含めた環境整備をする人が欲しいなと思います。それがないと校務主任なりがしないといけなくなり、その分子供と向き合う時間が減ってしまいます。用務員の配置は、多忙な先生を助ける大きな要素になると思います。

（市長）
校務も先生の多忙化に繋がるのでしょうか。あまり関係ない気もしますが。

（横田委員）
学校の環境整備を担当している校務主任が担任を持っていると手がなかなか回らず大変です。

（山本委員）
ＰＴＡの夏の授業か何かで、皆で校内をきれいにするのではだめでしょうか。よく分かっていなくていけないのですけれども。

（市長）
単発的にはそれでいけるでしょうけれどもね。

（教育長）
どちらかと言うと、それは秋の運動会に向けた環境整備だと思います。

（横田委員）
田原市の校務主任は、仕事を沢山持っています。

（教育長）
校務主任が担任を持って、生徒指導をやり、いじめや不登校もやり、その上環境整備となると当然１日ではやり切れません。
また、若い教職員に対する指導・コーディネートも必要で、校務主任、教務主任といった年代の先生は校長、教頭ができない細かい部分を間に入ってやるものですから、有能な人材が必要なのですけれども、時間を取られることが多くなっています。
学校を助ける意味で教育委員会も最小限の調査に止めているつもりですが、文部科学省・県教委・市教委から来るとやらざるを得ないといったこともあります。
要求・要望が多く、学校現場として上手く対応し切れていないというところで多忙化に繋がっている。配置を急いだ方がいいのではないかと感じています。

（金原委員）
学校給食について、小学校高学年、中学生になるとおかずが少し足りないという意見をよ

く聞きます。改善できないでしょうか。概ね評判がいいのですが、できればおかずをもう１品増やせないでしょうか。

（教育部長）
　新給食センターができた時におかずを１品増やしたのですが、量に関してはそれほど増えておりません。栄養士と相談しながら検討をさせてください。
　人にもより、女子は逆に多すぎるという子もいるし、１つの教室の中でプラスマイナスしていただけるとありがたいと思います。

（山本委員）
　アンケートという方法もありますよね。

（教育部長）
　年１回はアンケートを取っておりますので、そういった中で検討させてください。

（市長）
　アンケートには、旨い・まずいだけでなく、量のことも入れておいてください。

（横田委員）
　不登校の問題についてですが、田原市では教育サポートセンターと子ども・若者支援事業で小学校から大人までを対象とした相談活動の場所が設置され、とてもいいことだと思っています。
　ただ、なかなか外に出られない子達がまだいます。学校の先生が家庭訪問して面談しようとしてもなかなか会えない、そういった子達が数人いるようです。そういった家庭の中に入って支援する人を派遣してくれるところが東三河県庁の中にあり、なるべく外に出るように支援をした結果、何年間か家から出なかった子が卒業式に出たという例があります。
　学校現場の先生が行ってもなかなか会ってくれないという家庭がある訳ですけれども、ぜひ市として家庭支援、アウトリーチ型の支援をする人がいるといいと思います。学校の先生もなかなか手が回らず、教育サポートセンターの教育相談員がアウトリーチ型で行っていますが、そういった人が増えて家庭の中に入っていければと思います。
　国の方でもそういった事業が新しくできたようで、いろんな形の支援事業があるみたいですけれども、そういった方が入ってくれると学校も助かるという話をよく聞きます。お金がかかることばかりでありますけれども、家庭の中に入って子供や親と話をしていただける方が市にいると大変嬉しいと思います。

（市長）
　学校の先生ではなくて、今は市の教育委員会の方が回っていますよね。

（教育部長）
　子供・若者事業の中の訪問型アウトリーチでやってはいるのですけれども、追いついていません。

（横田委員）
　アウトリーチの相談員が１人で何件も持つことはなかなか難しいと思います。１、２件持つとそれだけで精一杯です。
　学校になかなか来られない子が田原市にも何名かいるのですけれども、そういう子をなるべく支援してあげられるように充実して欲しいと思います。今は教育サポートセンターの相談員もたまに入っているのですけども、週３日勤務の嘱託員ですので。
　また、内閣府の子供・若者事業と教育サポートセンターの両方を受け持っていただける人がいるといいと思います。そういった人が子育て支援課にいると思うのですけれども、課が違うとどうしても自分達のテリトリーでということになりがちですが、なるべく課と課の連携を取って対応していただくのが理想です。

（教育長）
今は１５歳を過ぎても虐待であるとか、いろいろな家庭の事情があって、１つの対応事例がそのまま他の事例に当てはまるということではなく、１件１件の対応に追われてしまっています。それだけ深刻で、３０代の人が引きこもりで家庭内暴力が起きているといったような時には、非常に危険度が高い中でどうやって手を差し伸べるか非常に難しい部分があります。当然チームで対応しないといけないでしょうし。
１５歳以上の高卒に近い年齢の子達や未就学児童を含めて、健康福祉部と連携して全体を上手く見ていくことができればとは思います。

（横田委員）
それでどういう風になるか分かりませんけれども、野田中学校が空いてきますよね。そこに市内一括しての相談事業がまとまって入るといいと思います。そこに警察 OB も入っていただければ暴力的なことについてもチームとして動いていけます。
本当に悩んでいる人や障害を持っている人達をどのようにサポートしていくかというのが人づくりだと自分は考えていますので、ぜひそういったチームなり組織ができるといいと思います。

（山本委員）
小中学校に行けなかった子がそのまま大人になってしまい、中学校を卒業した時点で教育委員会は関係ないとなってしまわないようにということですね。

（横田委員）
それを子供・若者の方に繋げていくのですが、やはり小さい時にある程度手をかけてあげることが大人になって引きこもりにならないということなので、手厚く支援ができる組織を作っていただければと思います。

（山本委員）
豊橋市ではＮＰＯがやっていましたよね。

（横田委員）
厚生労働省の事業を活用したサポートステーションです。

（山本委員）
田原市にはないですよね。

（横田委員）
田原市にはなく、田原市を管轄しているサポートステーションが蒲郡市にあって、そこから来ていただき各学校を回っています。
市内で一番いいと思う場所は、旧田原駅舎のところです。そこにサポートステーションができるととてもいいと思っていたのですけれども。

（市長）
施設というよりも、引きこもりだとか不登校ということですからどこにあってもいいかと思うのですけれども、横田委員が言われたように義務教育から大人にかけて一体的にサポートするシステムをつくらないといけないということですね。

（教育長）
徐々につくられてきてはいます。子供・若者相談窓口が昨年度からできましたので、例えば不登校の中学生が卒業した後、その子が高校に行けるようになったとか、引き続き引きこもったままといった情報は、教育サポートセンターから子供・若者相談に引き継ぎながら常にサポートする体制が整いつつありますが、まだ追いついていないのが現状です。

（市長）

問題を抱えた子供がそのまま大人になって、大人の支援の方で今実際に困っているという話を先日聞いたのですが、どうしたものでしょうか。

（横田委員）
やはりサポートステーションだと思います。子供・若者の相談窓口は市役所の中にあるのですけれども、一般の来客者と紛れるので窓口へ行きやすいと言っています。例えば野田中学校がそういった相談窓口になった場合､特殊な目で見られるというデメリットはあります。
組織として対応するのに効果が高かったのが教育サポートセンターで、不登校の子が１８人いたのが次の年にはゼロでスタートできました。やはり組織として動いていくということがとても大事だと思います。

（市長）
不登校ゼロはその後続いているのでしょうか。

（横田委員）
続いています。ただ家庭の中にはまだなかなか入っていけていません。

（山本委員）
高校の先生から、中学校までの情報が途切れてしまっていて、この子はこういう問題を抱えているということを繋げて欲しいと聞きました。それも関係してくると思うのですが。

（教育長）
中高の連携はまた難しい部分があります。中学校の養護教諭の先生が高校の養護教諭と話し合う機会が確かあったと思いますので、少しずつ前進してはいると思います。

（市長）
中学生、高校生、一般の引きこもりまで一体化したサポートセンター的なものをやっていかないといけないということでいいですか。

（横田委員）
はい。暴力的なものもありますので警察 OB を含めてです。

（市長）
そういったことが先日の子供・若者相談の会議で言われていましたね。

（山本委員）
今のことに関連して、実際に引きこもりの人がいて声をかけたいのですけれども、どうしたらいいでしょうか。

（横田委員）
大人の人であれば、まずは民生委員がいいのではないかと思います。

（市長）
そういった人を専門に支援をしている人達がいます｡やはりとても怖いそうですけれども、誰かが支援しないとずっとそのままになってしまうので支援されています。３０代半ばの人が一番怖く、それが犯罪に繋ってしまうのが危ないのですけれども、それをやってくれている人達がいます。親も知られたくないといいうことで、そうした悩みがいろいろあるので心配ですけれども。
その人のことは、多分もう分かっていると思いますが。

（山本委員）
最近知ったことなので、多分誰も知らないと思います。

（市長）

そういった相談を周りから受けて、他の人に分かってしまってはいけないので分からないように活動をされています。分からないように活動するのが大変だと言われていました。

（教育長）
誰が密告したのかという話になってしまいますので。

（山本委員）
教育委員である自分が何らか対応したいという思いもあるのですが。

（市長）
やはり専門の人にお願いしないと。

（横田委員）
豊橋のセーフティネットのような所もあります。

（金原委員）
いじめの相談をよく受けるのですが、一番多いのが無視されて仲間外れにされるというもので、一度直接校長先生に話しをしたことがあるのですけれども、学校としてどのような対応をされているのでしょうか。

（教育長）
子供に近い担任、生徒指導のところで実態をどう把握するかですが、子供同士で解決すればいいですし、親に入ってもらう深いものであれば、学校側の対応も担任、生徒指導だけでなく学年主任と段々大きくなっていきます。
そういったことは結構あるので、どのように無視されたかということによっても対応は変わってきます。

（金原委員）
それはいじめとして捉えるのでしょうか。

（教育長）
まずは個別に話を聞いて、子供の気持ちを含めてどういう状況の中で無視されたのか的確な把握が必要かと思います。無視が何回か連続となればいじめの状況にも当たるのではないかと思います。
また、いじめとよく似ているものに嫌がらせがありますけれども、単なる嫌がらせか、親しんでじゃれているところから段々となってきたというようなものもありますので、内容をしっかり把握することがまずは大事だと思います。

（金原委員）
ある程度いじめらしきものは、学校から教育委員会に報告するのですか。

（教育長）
毎月調査がありますので、いじめが進行中である、あるいは解決済みといったことの把握をしています。いじめが続くのはよくないですから、なるべく早く解決済みにしないといけないのですし、それが不登校の場合は継続中、あるいは学校に来られるようになったということになります。
毎月の調査の中で、学校にコメントも求めていまして、この子についてはあまり変わっていない、この子は４月より段々よくなってきたというように、個々をしっかり見ていくよう学校に対してお願いをしています。

（横田委員）
各学校でいじめ防止方針を作っていますし、市教育委員会も昨年度作りました。どうしても作ってしまえば終わりという物の考え方が何かあるように感じられ、学校もそうですが市

の方も見直しをするための話し合いが必要ではないかと思います。せっかく作ってあってもそれが機能しなければ意味がありませんので、きちんと検証するということを大事にして欲しいと思います。

（教育長）
いじめ防止方針を作りなさいと国から言われて、また、市教委もそう言って学校は作るのですが、学校現場は動いていますので、常にいじめ防止方針を右手に持って子供に対応する時にそれを見ながらやっている訳ではなく、目の前の子供をどうするかということを直にやっていますので、年度末に見直せるかもしれませんが、そう度々はできません。違うことがまた起こっていますので、それが多忙化にも繋がっているのですが、１つ１つ整理して記録を取って次にいきますということではなく、複線で仕事をしています。
何が一体そんなに忙しいのか理解が難しいのではないかと思いますが､他にも子供の指導、部活の指導、研修計画のレポート作成といったようなことが沢山ありますが、それらをなくす訳にもいきません。
多忙化と言われてもう１０何年経ちますが、それが解消されているかと言いますと、何とかせよと言っている割に在校時間は減っていません。先日も報道発表がありました。一番の問題は、上からどんどんいろんなことが要求され、これはやらなくていいということを言ってくれないことですね。今までのことに加えて更に上乗せされていますが、その分先生を増やしてくれるかと言うと、財務省にしてみると子供の数が減っているのだから先生を減らせばいいと機械的になってしまいますので、内容的にはどんどん膨れ上がっています。
もし仮に先生から部活動を取れば、２、３時間そこに時間を割いていますので、そこは考えてもいい部分だとは思います。

（市長）
おそらく、いじめとはっきり分からないから問題になっているのですよね。

（横田委員）
いじめと不登校の関係は、昔は半数以上あったと思いますが、今はそうではなくて極僅かで、子供同士のトラブルというよりもその子の性格というか支援が必要な子達が沢山いて、そうした子達がいろいろなトラブルを引き起こしています。

（教育長）
横田委員が言われたようにいじめはだいぶ減ってきていて、個人的な問題と家庭を含めた問題が今は一番大きいと思います。社会全体がいじめに対して非常に敏感になっていますので、教室の中で聞いていますと、子供達もそれはいじめだよと言います。
以前は人間関係のもつれが不登校になったということが時折ありましたが、調査の結果からしますと、現時点ではいじめよりも本人の性格、家庭の中の要素が大きくなっています。今の子達は対人関係が上手くいっていませんので、一人になりがちで自分を上手くコントロールできなくなっています。

（横田委員）
いわばスクールカースト制とでもいうようなことが学校の中に入ってきていて、家庭の収入によって子供がランク付けされているというような実態があります。本当に苦しい思いをしている家庭もあって、教材などは見栄を張って揃えていますが家庭は火の車でどうやって生活していこうかという家庭もあります。
そういったことが田原市にも少しずつ入ってきています。子供の中でランク付けがされ、それがいじめなどにつながっていて、豊橋市で起きていることが少しずつ田原市にも入ってきているのを強く感じます。

（山本委員）

学校訪問の際に、その辺りのことを先生にもう少し掘り下げて聞いた方がいいかもしれませんね。

（金原委員）
いじめに関してはなかなか聞きづらい部分もある。

（教育長）
いじめゼロ、そして不登校ゼロというのが基本的にいい学校というのが分かりやすいのではないかなと思いますが、スマートフォンや携帯電話を使ったものはなかなかつかめなく、とてもやっかいで、それが引きこもりになってしまうと昼夜逆転ということも含めて、インターネットに関連したトラブルやいじめにも繋がるのですが、原因が見えにくくなってしまっています。

（市長）
いじめに関して何か市ができることはありますか。

（教育長）
自分が学校にいた時には、いじめのことを考えるよりは皆で楽しく仲良く活動できることはないかということで、同じ学年だけではなく学年の壁を破った楽しい活動、何か燃えるような、打ち込めるような活動、例えば体育大会や合唱コンクールといったクラスマッチ的にやっているものをもう少し縦に広げ、フォークダンスでも何でも構わないのですが、子供達自身がアイデアを出し子供達が中心になって学校を楽しくしていく、いじめから遠くなる活動へ向けていくということをしてきました。希望づくりを進めることがやはり大事だと思います。

（横田委員）
いじめは学校教育だけではなかなか追いつかないと思います。

（市長）
言い方を変えれば、コミュニティとかそういったことも考えればできるということかと思いますが、発見できないから問題になっていて困っているんですよね。分かっていれば、多少なりとも対処できますが、地域であればなおさら分からないのではないかと思うのですけれども。

（山本委員）
通学団から離れて１人とぼとぼ歩いている子がいた時に、それがいじめなのかどうか私達もよく分からないですよね。

（市長）
それは多分いじめではないと思います。昔のいじめと違って、今はもっと陰湿になっていて、家庭の中のこともあるし、いろいろあってよく分からないのですけれども、子供同士の喧嘩とは違うと感じます。

（横田委員）
喧嘩のように対等なものではなく、一方的、集団的です。ただあまり声をかけると不審者と言われます。自分はコミュニティが一番大事だと思っていて、地域の人であれば声がけしても不審者には思われません。

（市長）
放課後子供教室といった場で見つけられればいいのですけれども、そういった子は多分来ませんよね。やはりいじめは見つけるのが先だと思います。

（横田委員）

見つける方法は、浜松の和久田学（※公益社団法人子どもの発達科学研究所主任研究員）という人が言われているのですが、いじめられている子の周りを取り囲んでいる子達、そういった子達はいじめられた経験がある子達で、そういった子達が先生に言う、大人に言う、そういった指導が必要です。

（市長）
そういった指導はしていないのでしょうか。

（横田委員）
しているとは思います。

（山本委員）
道徳の授業などでもやっているのではないでしょうか。

（市長）
指導していてもなぜ見つからないのかなと思います。だから見つけることが大事で、声をかけ合ってもなかなか出てこないというような気がしてならないのですけれども。

（横田委員）
これは永遠の課題だと思います。
最後に１つだけ。高校問題を市として考えて欲しいということです。先日、県の高等学校教育課の人に講演をしていただいたのですけれども、福江高校がなくなってしまわないようにぜひ何か取り組んでいって欲しいと思っています。
子供達は皆、東の方を向いて流れていってしまうのですが、福江高校が何か特色ある教育課程ができるといい、ボランティアで地域に出かけるような特色ある教育課程が組めるといいということを教育長が言われていますが、高校の問題がまた出た時にはぜひお願いしたいと思います。

（市長）
高校をきちんと存続できるように特色のあるものを何かやるべきということは聞いています。市としてもお願いしながらどうしたらいいかということについてまた打ち合わせなどをしていきたいと思います。
いろいろと御意見をいただき、ありがとうございました。今日の会議はこれで終わりますけれども、これで総合教育会議が終わる訳ではありませんので、これからも気が付いたことを市と教育委員会がしっかりと共有していかないといけないと思っています。
次に、協議話題（４）その他ですが、何かございますか。ないようですのでここで一旦事務局に進行をお返しします。

（教育部長）
次回の会議は１１月頃を予定したいと考えております。大綱の素案をお示ししていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

（市長）
それでは、これをもちまして第１回田原市教育総合会議を終了させていただきたいと思います。本日はどうもありがとうございました。

（閉会　午後４時２７分）